

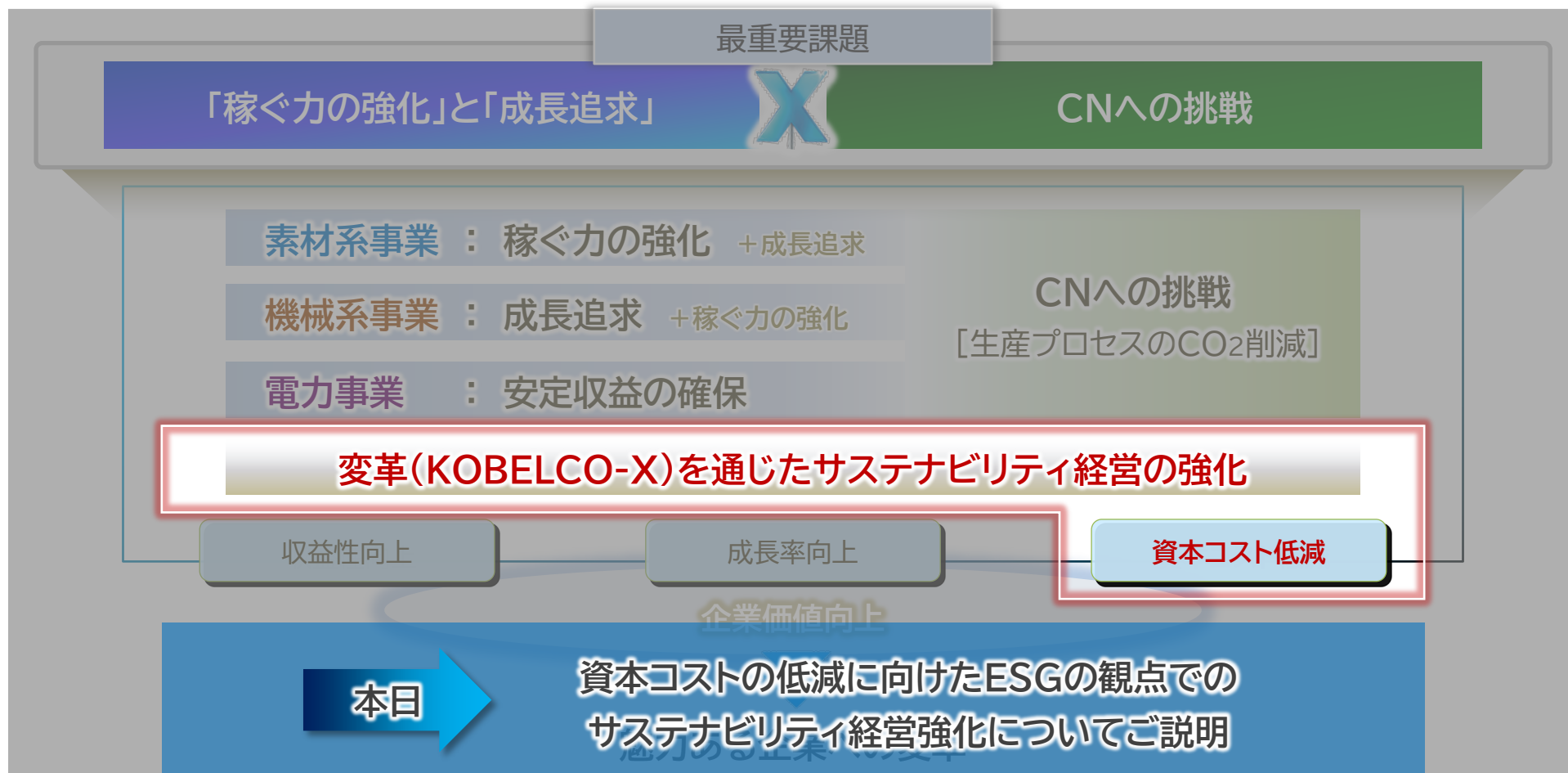
KOBELCO

ESG説明会

2024年9月25日
株式会社 神戸製鋼所

KOBELCOグループ中期経営計画(2024～2026年度)の基本方針

稼ぐ力の強化と成長追求に取り組むとともに、CNへの挑戦を継続
サステナビリティ経営の強化を通じて企業価値を向上→魅力ある企業への変革を果たす



マテリアリティの指標の見直し

- サステナビリティ経営をより効果的に推進するため、2021年度に特定したマテリアリティについて、外部環境の変化等を踏まえて、2024年度よりマテリアリティの指標を見直しました。
- 2024～2026年度は新たな指標の進捗をモニタリングし、中期計画の達成を目指していきます。

マテリアリティ		指標	マテリアリティ		指標
グリーン社会への貢献 	気候変動対応	① 生産プロセスにおけるCO ₂ 削減	多様な人材の活躍推進 	組織の多様性の向上	⑮ 総合職新卒採用女性比率
		② CO ₂ 排出削減貢献量及び関連製品売上高			⑯ 基幹職技能系女性社員採用・離職率
		③ 電力事業におけるCO ₂ 削減			⑰ 女性管理職人数
	資源循環対応	④ 水のリサイクル率		活躍できる環境の整備	⑱ 男性社員の育児休業及び育児のための特別休暇取得率
		⑤ 規制地域における汚濁物質(COD、総りん)排出量			⑲ 年次有給休暇取得日数
		⑥ TNFDに準拠した情報開示			⑳ グループ企業理念の浸透
安全・安心なまちづくり・ものづくりへの貢献 	「S+3E」のエネルギー供給	⑦ 電力の安定供給の継続	持続的成長を支えるガバナンスの追求 	一人ひとりの成長・挑戦の促進	㉑ 社員研修の拡充
		⑧ 鋼材のエコプロダクト比率			㉒ 内部通報制度の利用しやすさ
		⑨ アルミ板の低CO ₂ 原料比率		コンプライアンス・リスク管理	㉓ 人権デューディジェンス実施会社
	ニーズに即した素材・機械の提供	⑩ 環境関連機械製品受注比率(脱炭素・LNG等)			㉔ 休業災害度数率
		⑪ ICT建機累計販売台数(国内)		人権尊重	㉕ 品質ガイドライン認定拠点率
		⑫ 溶接ソリューション製品売上比率			㉖ KOBELCO TQM実践マネジメントプログラム修了率
人と技術で繋ぐ未来へのソリューション提供 	デジタル化によるものづくり・業務変革(DX)	⑬ DXに関する社員の意識調査結果		安全衛生	
	多様な知的資産の融合と革新	⑭ 新事業のアイデア創造数		品質保証	
					TQM

※ 2023年度までの指標および目標に関する実績については、参考資料をご覧ください。

本日は、ESGの観点のうち、以下の内容についてご説明します。



- ①CO₂削減に対する取組み状況
- ②アルミ板事業における取組み
- ③自然資本(生物多様性)対応



- ①人的資本への対応
(人材戦略・安全衛生・健康経営)
- ②責任あるサプライチェーン
- ③社会貢献活動



- ①経営体制(モニタリング機能強化)
- ②役員報酬へのESG指標反映



E (環境)

- ① CO₂削減に対する取組み状況
- ② アルミ板事業における取組み
- ③ 自然資本(生物多様性)対応

生産プロセスにおけるCO₂削減

※1 Scope1、Scope2の合計

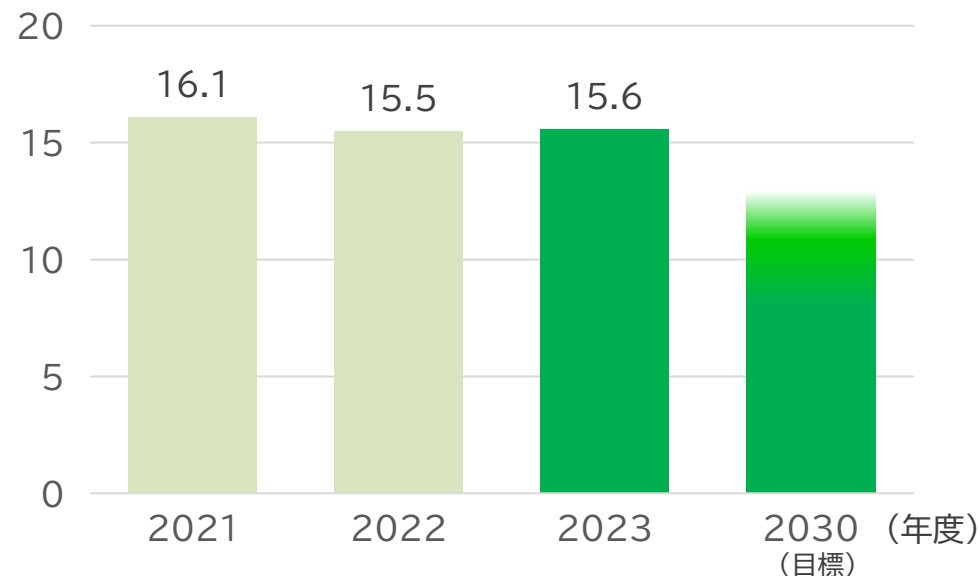
2050年ビジョン	2030年目標
カーボンニュートラルへ挑戦し、達成を目指す	当社グループの生産プロセスにおけるCO ₂ 削減 30～40%削減(2013年度比)※1

- 2023年度のCO₂排出量は、前年度と比較して同等程度、削減率は**2013年度比で△20%**の15.6百万tとなりました。
- 製鉄プロセスにおいては、MIDREX[®]プロセスで製造したHBI（還元鉄）を高炉に多量に装入し、高炉工程でのCO₂排出量を約25%削減できることを実証試験で確認しています。

エネルギー起源CO₂排出量の推移※2

(Scope1、Scope2の合計、一部を除く)
(国内海外グループ会社含む)

(百万t)



※2：算定方法の見直しに伴い、2022年度の数値を遡及して修正しています。

また、電力事業については、「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づく報告制度の算定手順に準拠して算定しており、販売電力に相当するCO₂は上記グラフに含んでいません。電力事業についても、バイオマス技術を利用した地域全体でのエネルギー利用の効率向上等や、アンモニア等を利用した外部の革新技术の活用検討に果敢に取り組んでまいります。

CO₂削減に対する取組み状況

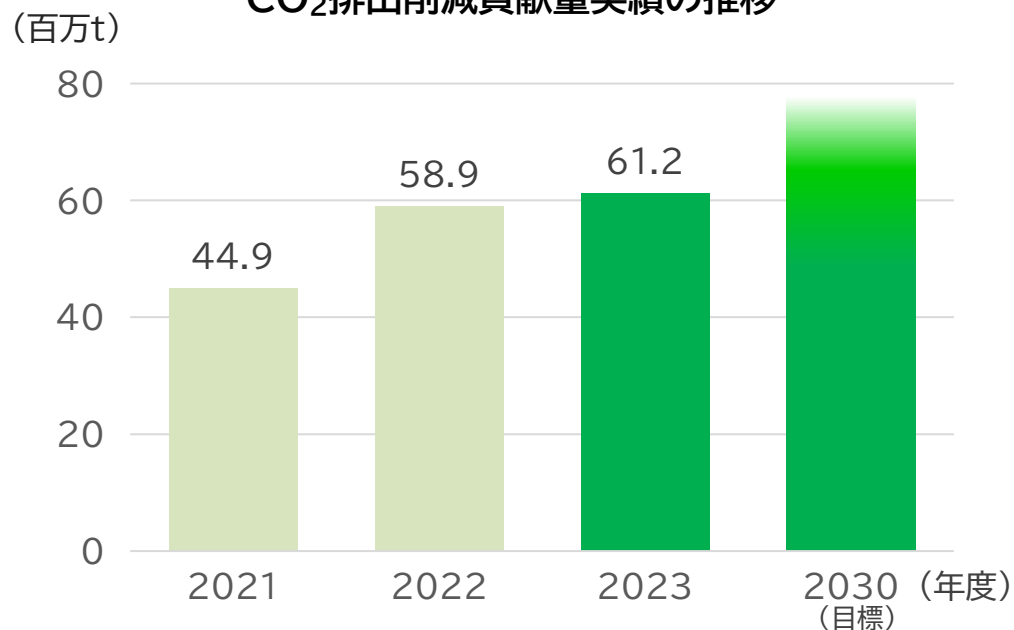
技術・製品・サービスによるCO₂削減

※ 61百万tから上方修正

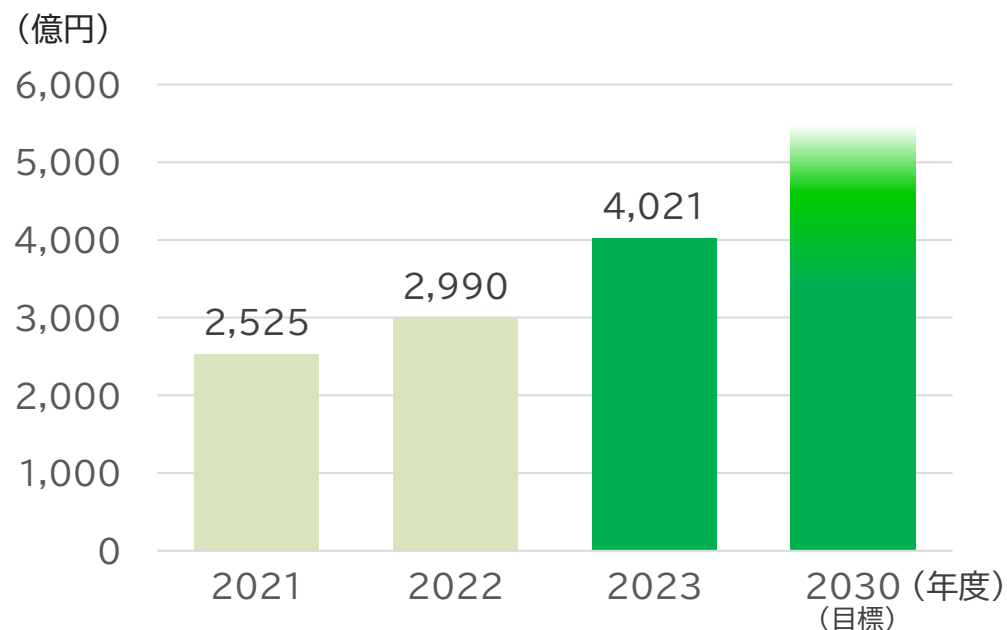
2050年ビジョン	2030年目標
CO ₂ 排出削減貢献量 1億t 以上	CO ₂ 排出削減貢献量 78百万t 以上※ 関連製品の売上高 5,500億円

- ・ GX戦略委員会において承認された当社グループの技術・製品・サービスによる2023年度のCO₂排出削減貢献量は**61.2百万t**と推計しています。また、関連製品の売上高は4,021億円でした。

CO₂排出削減貢献量実績の推移

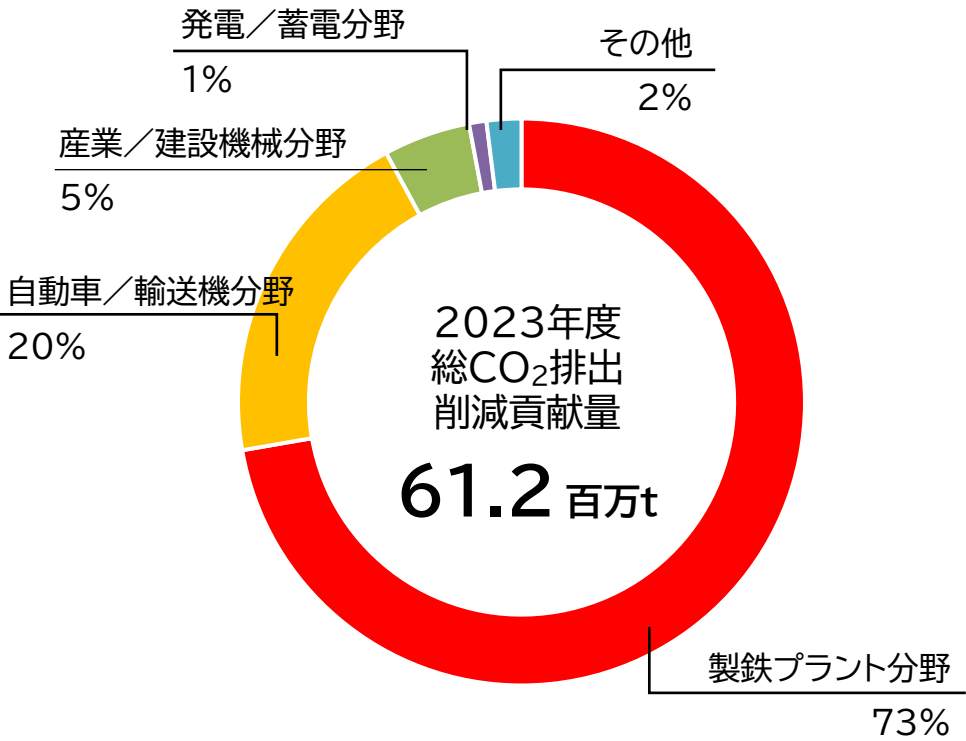


関連製品の売上高



★ CO₂排出削減貢献量の計算式については、国立研究開発法人産業技術総合研究所 安全科学研究部門 IDEAラボ 田原聖隆ラボ長にご指導いただくことで、公正性・客観性を担保しています。

技術・製品・サービスによるCO₂削減（内訳）



技術・製品・サービス		削減貢献量 (万t/年)
製鉄プラント分野	MIDREX®プロセス	4,464
自動車／ 輸送機分野	自動車向け超ハイテン 超ハイテン用溶接材料	1,030
	懸架ばね用線材	29
	自動車弁ばね用線材	86
	造船用ハイテン	22
	自動車用アルミ材	27
	鉄道車両用アルミ材	8
産業／ 建設機械分野	ヒートポンプ、汎用圧縮機、 スチームスター、エコセントリ	255
	省エネ建設機械	53
発電／ 蓄電分野	木質バイオマス発電、 バイオマス発電	20
その他	高炉セメント、 熱処理工程省略可能な 線材・棒鋼	124

※ 今後算定予定の技術・製品・サービスについては、統合報告書をご参照ください。

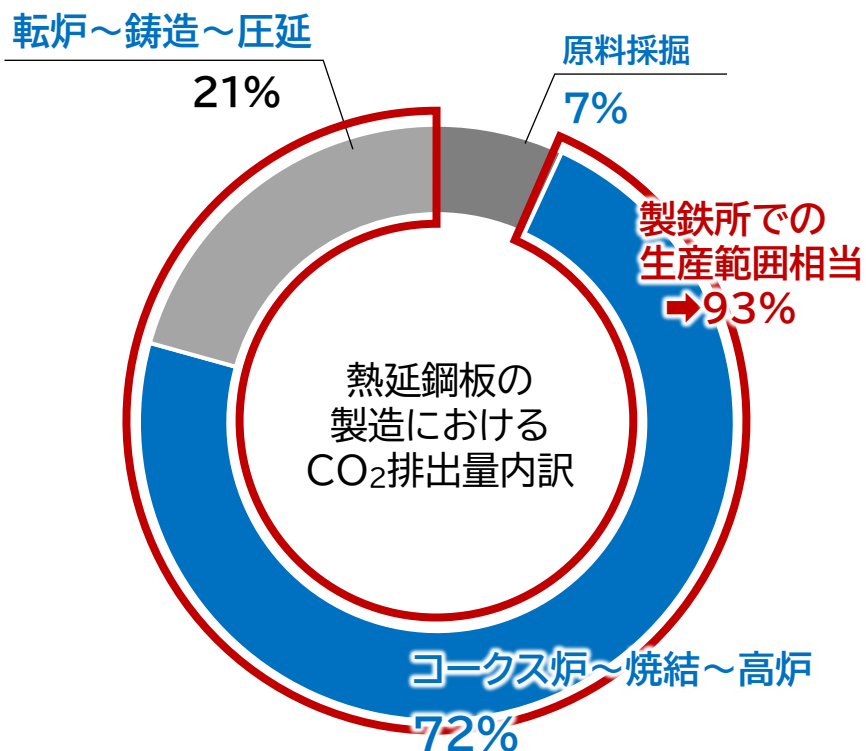
アルミ板事業における取組み

鉄鋼とアルミ板の製品に占める各工程のCO₂排出量比率

- 鉄鋼とアルミニウムにおいては、製品に占める当社のCO₂排出量の割合が異なります。**アルミニウム**では**Scope3※¹**が大きく、**Scope3の削減が重要**となります。

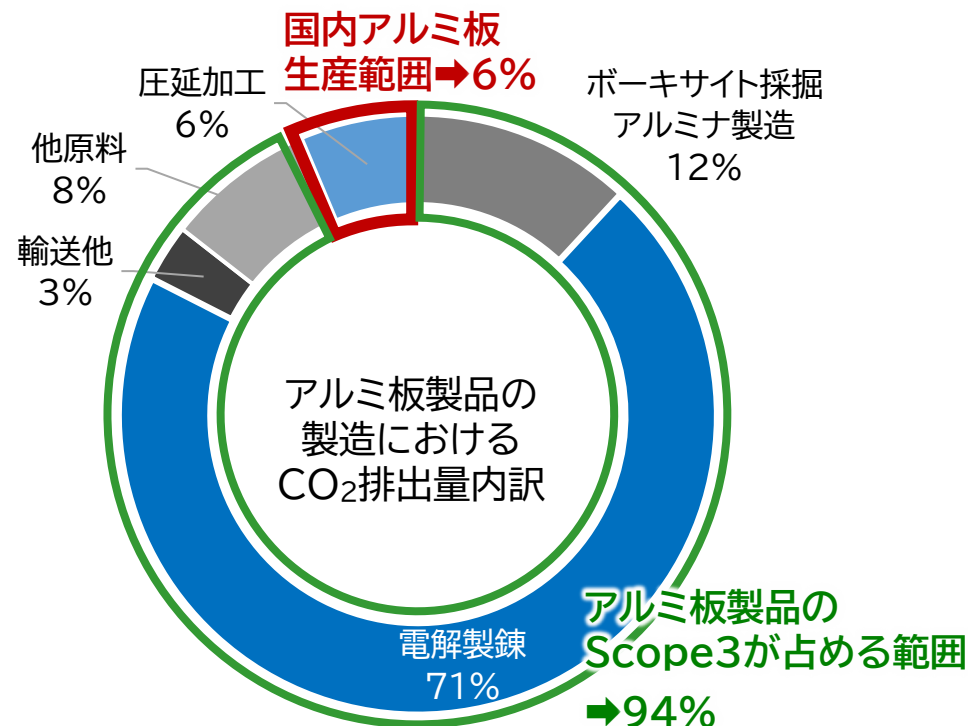
※1 Scope3はCategory1(原料)のみが対象

鉄鋼（熱延鋼板）



出所:Carbon Trust, International Carbon Flows – Steel(2011)を改変

アルミニウム（アルミ板）



出所:日本アルミニウム協会情報より神戸製鋼作成

6000系自動車パネル材(参考 新地金比率100%)をベースとした

※ アルミニウム新地金および展伸用再生地金のLCIデータの概要

<https://www.aluminum.or.jp/environment/pdf/1-1.pdf>

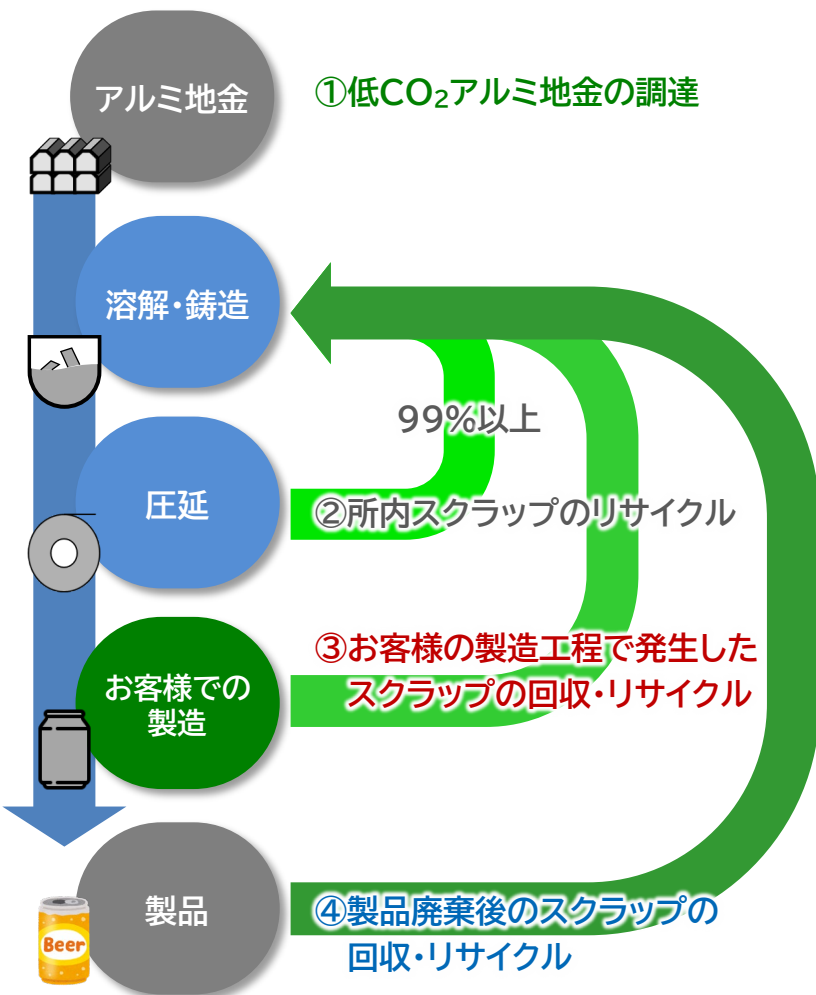
※ 自動車用アルミ材料のCO₂原単位の試算

https://www.aluminum.or.jp/environment/pdf/2-3-10_190731.pdf

アルミ板事業における取組み

真岡製造所でのScope3の削減

- 『低CO₂アルミ地金の調達(下図①)』
『スクラップのリサイクル(下部②～④)』
の2つのアプローチで取り組んでいます。



①低CO₂アルミ地金の調達

～適用と拡大～

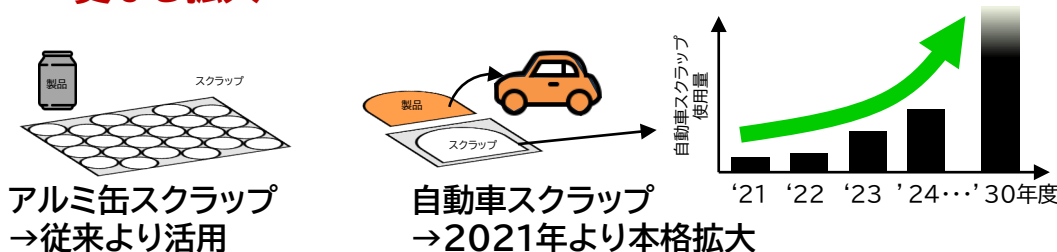


通常のアルミ缶と比較して
CO₂排出量を**25%削減**

「ザ・プレミアム・モルツ(サステナブルアルミ)」として
数量限定新発売(2024年1月30日(火) 発売)

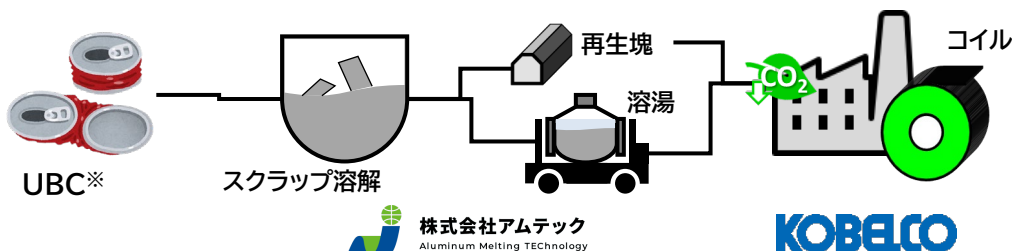
③お客様の製造工程で発生したスクラップの回収・リサイクル

～更なる拡大～



④製品廃棄後のスクラップの回収・リサイクル

～サプライヤーとの連携強化～

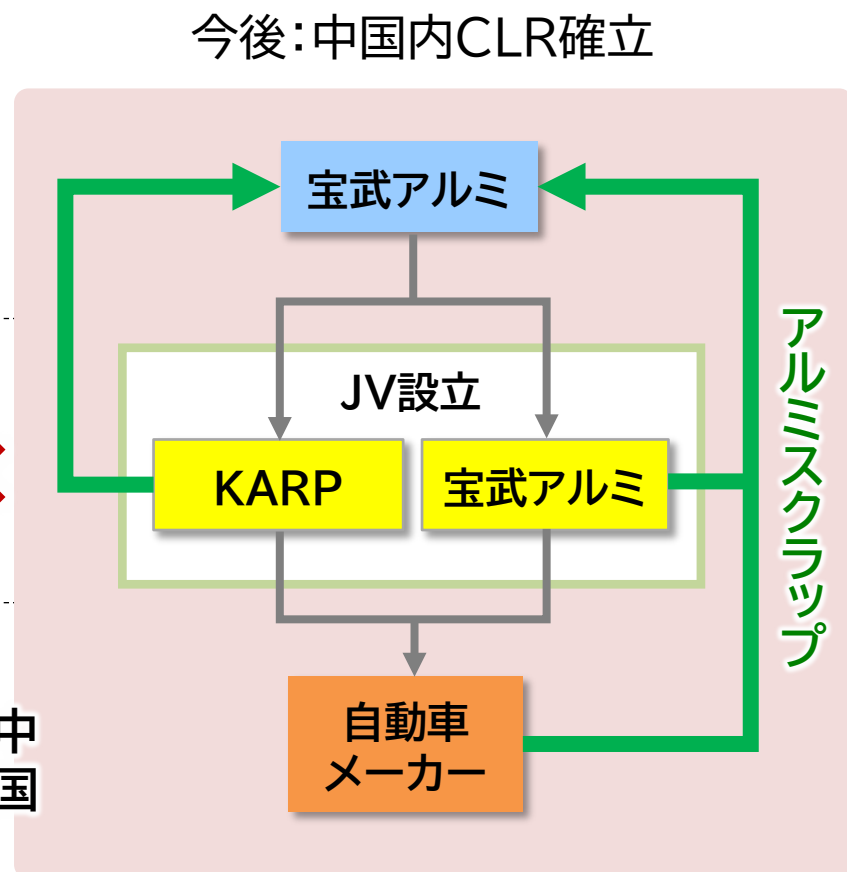
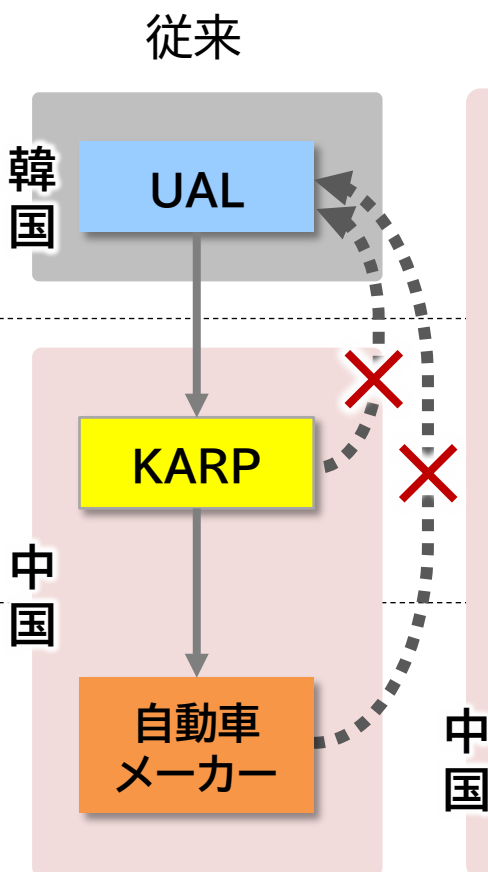
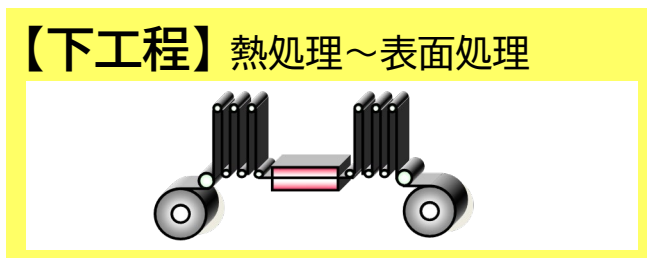
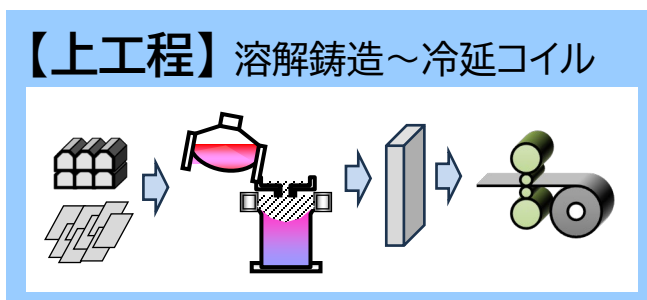


※ Used Beverage Can(使用済み飲料用アルミ缶)

アルミ板事業における取組み

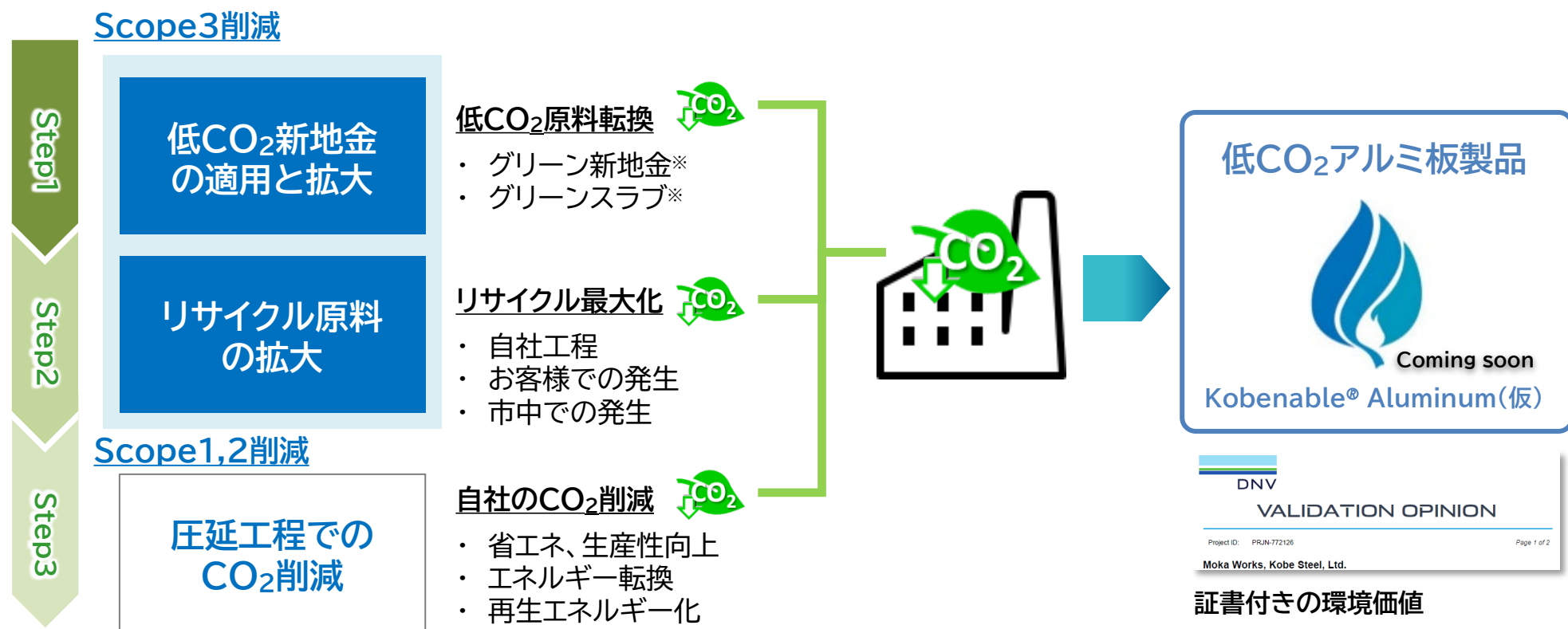
中国国内自動車パネル材クローズドループリサイクル (CLR)の確立

- 神鋼汽車鋁材(天津)有限公司(KARP)と、宝武鋁業科技有限公司(宝武アルミ)の下工程を統合した合弁会社を設立する契約書を2024年8月に締結しました。
- 中国国内自動車メーカー様向けに、高品質アルミパネル材を製造・販売する事に加えて、**CO₂排出削減に向け、お客様、合弁会社で発生したスクラップのリサイクルを推進**します。



低CO₂アルミ板製品のブランド化検討状況

- 当社で実施したCO₂削減効果(下記、Step1～3)をマスバランス方式を用い、特定のアルミ板製品に割り当てた低CO₂アルミ板製品の商品化を進めています。
- 今回、Step1のGHG排出削減量、製品別GHG排出量の算定などについて、第三者機関(DNV)による承認プロセスの妥当性検証を終えました。
- 引き続き、Step2、3の検証を進め、**環境価値製品の商品化、対象製品の拡大**を進めます。



※ 電解製錬時に再生可能エネルギー由来およびその他の非化石エネルギーの電力を使用し、CO₂排出量を抑制して製造したアルミニウム地金およびスラブ

- 地球に息づく豊かな生態系を守るとは、環境活動の重要なテーマであると認識し、2010年12月に独自の「コベルコ生物多様性指針」を策定し、生物多様性の保全や貢献に取り組んでいます。

「コベルコ生物多様性指針」

当社グループは、生物の多様性の保全が重要であることを認識し、ここに指針を定め、生物多様性の保全のための活動を推進する

1. 事業活動が生物多様性に影響を与えていることを認識し、その影響を低減するため継続的に努力する
2. 生物多様性に貢献する「技術・製品・サービス」の開発に積極的に取り組む
3. 生物多様性に関する取組みを開示し、社会と共有する
4. 地域社会と連携して生物多様性に関する活動を推進する
5. すべての従業員が、生物多様性に配慮した行動を積極的に行う



鉄鋼スラグを用いた潜堤構築材

海藻が繁茂する等、海洋環境の修復に効果があり、漁業者からも評価



兵庫県栄養塩類管理計画への参画

加古川製鉄所が兵庫県の「栄養塩類増加措置実施者」として選定され、豊かな海づくりに貢献



難波サイエンススクエアのビオトープ

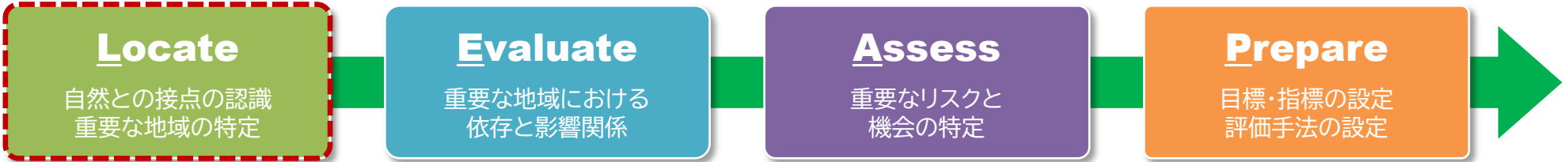
子どもたちを対象に生き物観察会などを開催



「生物多様性のための30by30アライアンス」に参加

自然関連リスクと機会

- 当社は自然関連財務情報開示タスクフォース(TNFD)の提言が推奨するLEAP手法※1に従い、自然関連リスクと機会の評価を進めていくこととしています。



- 今年度は当社グループの**主要生産拠点と、鉄鋼事業のサプライチェーン(原料調達)**について、具体的な自然との接点や必要な地域の特定を行いました。(Locateフェーズ)

事業分析 分野 内容	2023年 3月期 売上割合 (%)	バリューチェーン の段階	自然へのインパクト(本タイプ)														自然への依存											
			土地・水資源・気候利用変化				気候変動		資源利用/回復		汚染/汚染除去		生物多様性		土壌・水質・大気・生物多様性の排出量		供給サービス		調達・経費サービス				気候変動		水資源		土壌・大気・生物多様性	
			土地利用 面積	水利用 面積	気候利用 面積	GHG 排出量	水使用量	その他 気候変動 排出量	その他 資源 消費	森林 伐採 面積	森林 再生 面積	有害な 物質の 排出量	有害な 物質の 排出量	有害な 物質の 排出量	有害な 物質の 排出量	有害な 物質の 排出量	有害な 物質の 排出量	有害な 物質の 排出量	有害な 物質の 排出量	有害な 物質の 排出量	有害な 物質の 排出量	有害な 物質の 排出量	有害な 物質の 排出量	有害な 物質の 排出量	有害な 物質の 排出量	有害な 物質の 排出量	有害な 物質の 排出量	有害な 物質の 排出量
鉄鋼	35.72%	原材料調達	M	H	—	VH	M	—	H	VH	H	H	—	H	VL	H	L	VH	VL	H	H	H	M	VH	M	—	M	L
		製造	L	—	—	H	M	—	—	M	L	H	—	VH	L	M	—	M	VL	H	VL	M	M	M	L	—	M	L
アルミ板	7.74%	原材料調達	M	VH	M	H	L	—	—	M	L	H	—	VH	L	H	VL	VH	VL	H	H	M	H	VH	M	—	M	L
		製造	L	—	—	M	L	—	—	M	L	H	—	VH	L	M	—	M	VL	M	M	M	M	VH	M	—	M	L
アルミ、鉄鋼、鋼、鋼、ステン	10.86%	原材料調達	M	VH	M	H	L	—	—	M	L	H	—	VH	L	M	—	M	VL	H	H	M	M	VH	M	—	M	L
		製造	L	—	—	M	M	—	—	M	H	VH	M	VH	—	M	—	M	VL	M	VL	M	M	VH	M	—	M	L
溶接(溶接機・ワイヤ)	3.56%	原材料調達	M	H	—	H	M	ND	VH	L	H	H	—	H	VL	H	L	VH	VL	H	H	H	M	VH	H	—	M	L
		製造	L	—	—	M	L	—	—	M	H	VH	M	VH	—	M	—	M	VL	M	VL	M	M	VH	M	—	M	L
機械	7.41%	原材料調達	M	VH	M	H	L	—	—	M	L	H	—	VH	L	M	—	M	VL	M	VL	M	M	VH	M	—	M	L
		製造	L	—	—	M	L	—	—	M	L	H	—	VH	L	M	—	M	VL	M	VL	M	M	VH	M	—	M	L
エンジニアリング	5.87%	設計・製造	M	VH	M	M	L	—	—	M	L	H	—	VH	L	M	—	M	VL	M	VL	M	M	VH	M	—	M	L
		運営	M	—	—	H	M	—	—	M	M	H	H	H	H	VL	H	L	VH	VL	M	VL	M	M	VH	M	—	M
電力	13.24%	原材料調達	M	H	—	H	M	—	—	M	H	H	—	H	VL	H	L	VH	VL	H	H	H	M	VH	M	—	M	L
		製造	M	M	—	VH	M	—	—	M	H	VH	M	VH	—	VH	—	M	VL	M	VL	M	M	VH	M	—	M	L
建設機械	15.58%	原材料調達	L	—	—	H	M	—	—	M	H	VH	—	VH	—	H	—	M	VL	H	VL	M	M	VH	M	—	M	L
		製造	L	—	—	L	M	—	—	M	L	L	H	—	VH	L	M	—	M	VL	M	VL	M	M	VH	M	—	M

ENCORE※2を活用して作成したマトリクス図(ヒートマップ)

※1 LEAP: **L**ocate(発見)、**E**valuate(診断)、**A**ssess(評価)、**P**repare(準備)の頭文字をつなげたもの。リスクアセスメントの段階を示す。

※2 ENCORE: **E**xploring **N**atural **C**apital **O**pportunities, **R**isks and **E**xposure
自然資本金融同盟と、国連環境計画世界自然保全モニタリングセンター(UNEP-WCSC)などが共同で開発した自然関連リスク分析ツール

主要生産拠点

- IBAT※3で評価した結果、各拠点の半径3km以内に**自然保護地域はありません**。
- Aqueduct※4で評価した結果、一部の海外グループ会社が水ストレスの大きい地域(干ばつ、水の汚濁等)に立地していましたが、水の使用量そのものが少ないか、もしくは**水を循環利用するなど対策を講じています**。

No.	生産拠点名	国	生物多様性の重要性						水リスク		水リスク			
			WDPA (保護地域との近接)			保護地域スコア	保護地域名	レベル	水ストレス		水リスク (過水深 (m))		絶対値	スコア
			0km	0.5km	1km				スコア	スコア	絶対値	スコア		
1	加吉川製鉄所	日本			VI	1		Low - Medium (10-20%)	2	0.4	2		2	
2	神戸製鉄所	日本			IV, V	1		Low - Medium (10-20%)	2	0.0	1		1	
3	堺製鉄所	日本		IV	IV, VI	3	鎌倉 (都道府県)	Medium - High (20-40%)	3	0.0	1		1	
4	茨木工場	日本			IV	1		Low - Medium (10-20%)	2	0.0	1		1	
5	西条工場	日本			IV	1		Low - Medium (10-20%)	2	0.0	1		1	
6	福和山工場	日本			IV	1		Low - Medium (10-20%)	2	0.0	1		1	
7	真岡製鉄所	日本			IV	1		Medium - High (20-40%)	3	0.0	1		1	
8	長府製鉄所	日本		V, VI	IV, V	2	長府 (国立公園)	Low - Medium (10-20%)	2	0.9	3		3	
9	大宮製鉄所	日本			IV	1		Low - Medium (10-20%)	2	0.0	1		1	
10	神戸総合技術研究所	日本			IV	1		Low - Medium (10-20%)	2	0.0	1		1	
11	日本製鉄技術研究所	日本		VI	IV, VI	2	共同漁業管理区域	Low - Medium (10-20%)	2	0.0	1		1	
12	コベルコ(ワ) - 神戸	日本			IV, V	1		Low - Medium (10-20%)	2	0.0	1		1	
13	コベルコ(ワ) - 真岡	日本			IV	1		Medium - High (20-40%)	3	0.0	1		1	
14	高砂製作所	日本			VI	1		Low - Medium (10-20%)	2	0.0	1		1	
15	神鋼特殊鋼線(平瀬)有限公司	中国				1		High (40-80%)	4	0.0	1		1	
16	神鋼汽車組村(天津) 有限公司	中国				1		Medium - High (20-40%)	3	0.4	2		2	
17	神鋼鉄材加工(佛山) 有限公司	中国				1		Low (<10%)	1	0.0	1		1	
18	唐山神鋼鉄材材料有限公司	中国				1		Extremely High (>80%)	5	0.0	1		1	
19	神鋼三井物産(上海) 有限公司	中国				1		Medium - High (20-40%)	3	0.0	1		1	
20	神鋼三井物産(上海) 有限公司	中国				1		Extremely High (>80%)	5	0.0	1		1	
21	江門法尔社村田神鋼鉄材有限公司 (JYSF)	中国				1		Medium - High (20-40%)	3	0.0	1		1	
22	青島神鋼鉄材材料有限公司	中国				1	Qingdao-Rizhao	Extremely High (>80%)	5	0.0	1		1	
23	神鋼建設機械有限公司	中国				1		High (40-80%)	4	0.0	1		1	
24	神鋼汽車組部件苏州有限公司	中国				1		Extremely High (>80%)	5	1.7	4		4	

KOBELCOグループの生産拠点の評価例

鉄鋼事業のサプライチェーン（原料調達）

- IBATで評価した結果、主要な鉱山は国連自然保護連合が規定する自然保護地域カテゴリー1(原生自然区域)~3(天然記念物)の**サイトにはありません**。
- 一部鉱山では保護地域に近接していますが、生物多様性保全を含めた**環境保全に取り組んでいる**ことを確認しています。

No.	採掘名	国	鉱種	生物多様性の重要性					水リスク		水リスク						
				WDPA (保護地域との近接)			保護地域スコア	保護地域名	レベル	スコア	スコア	水リスク (過水深 (m))			絶対値	スコア	
				0km	1km	5km						絶対値	スコア	スコア			
1	Sargol	英国	鉄鉱石				1		Low (<10%)	1	0.0	1	0.0	1	1.3	4	
2	Poitrel	英国	鉄鉱石				1		Low (<10%)	1	0.0	1	0.0	1	2.1	4	
4	Stratford (NEW)	英国	鉄鉱石				1		Low (<10%)	1	0.0	1	0.0	1	1.3	4	
5	Ashton	英国	鉄鉱石				1		Medium - High (20-40%)	3	0.0	1	0.1	2	4.1	5	
7	Middlemount PCI	英国	鉄鉱石				1		Low (<10%)	1	0.0	1	0.0	1	1.0	3	
9	Integra SH	英国	鉄鉱石				1		Medium - High (20-40%)	3	0.0	1	0.0	1	2.4	5	
10	Walsend SS	英国	鉄鉱石			II	4	Sugarloaf (国立保護区)	High (40-80%)	4	0.0	1	0.0	1	1.6	4	
12	HVO SS	英国	鉄鉱石				1		Medium - High (20-40%)	3	0.0	1	0.1	2	4.4	5	
13	Kestrel 5/9 5/12/15	英国	鉄鉱石				1		Low - Medium (10-20%)	2	0.0	1	0.1	2	1.2	4	
14	Lake Vermont HCC	英国	鉄鉱石				1		Low (<10%)	1	0.0	1	0.0	1	1.1	4	
16	Moranbah North	英国	鉄鉱石				1		Low (<10%)	1	0.0	1	0.1	2	2.0	5	
17	Dawson Met Coal	英国	鉄鉱石				1		Low (<10%)	1	0.0	1	0.8	3	0.8	3	
18	Curragh HCC	英国	鉄鉱石				1		Low (<10%)	1	0.0	1	0.1	2	1.1	4	
19	Curragh HAPCI	英国	鉄鉱石				1		Low (<10%)	1	0.0	1	0.1	2	1.1	4	
20	Curragh 9%	英国	鉄鉱石				1		Low (<10%)	1	0.0	1	0.1	2	1.1	4	
21	Byerwen	英国	鉄鉱石			V1	2	Newlands (自然保護区)	Low (<10%)	1	0.0	1	0.1	2	2.0	4	
22	Sonoma	英国	鉄鉱石				1		Low (<10%)	1	0.0	1	0.0	1	1.5	4	
23	Drake S	英国	鉄鉱石				1		Low (<10%)	1	0.0	1	0.0	1	9.7	5	
24	Isaac Plains East	英国	鉄鉱石				1		Low (<10%)	1	0.0	1	0.0	1	2.4	5	
25	Tahmoor	英国	鉄鉱石			II, Not A	4	Thrimmer Lakes (国立公園)	High (40-80%)	4	0.0	1	0.0	1	9.0	5	
26	Elkview	カナダ	鉄鉱石				1		Low (<10%)	1	0.0	1	0.0	1	2.1	5	
28	Cheviot	カナダ	鉄鉱石				1	Whitehorse Wildland Provincial	Low - Medium (10-20%)	2	0.0	1	0.0	1	0.0	1	
30	Wolverine	カナダ	鉄鉱石			Ib	1		Low (<10%)	1	0.0	1	2.3	3	2.3	5	
32	Little Toby	米国	鉄鉱石				1		High (40-80%)	4	0.0	1	0.0	1	0.0	1	
34	HVO Steaming	英国	一般炭				1		Medium - High (20-40%)	3	0.0	1	0.1	2	4.4	5	
38	MTW 17% Ash	英国	一般炭				1		Medium - High (20-40%)	3	0.0	1	0.0	1	5.5	5	
39	Wipijong 17% Ash	英国	一般炭			Ia, II	5	Hornhorn Gap (自然保護区)	Medium - High (20-40%)	3	0.0	1	0.0	1	0.1	2	

鉄鋼事業のサプライチェーン(石炭、鉄鉱石の鉱山)の評価例

※3 IBAT:国連環境計画・世界自然保全モニタリングセンター(UNEP-WCSC)、国連自然保護連合(IUCN)が共同で開発。保護地域・保護優先地域、絶滅危惧種リスク等のデータをスコア化。

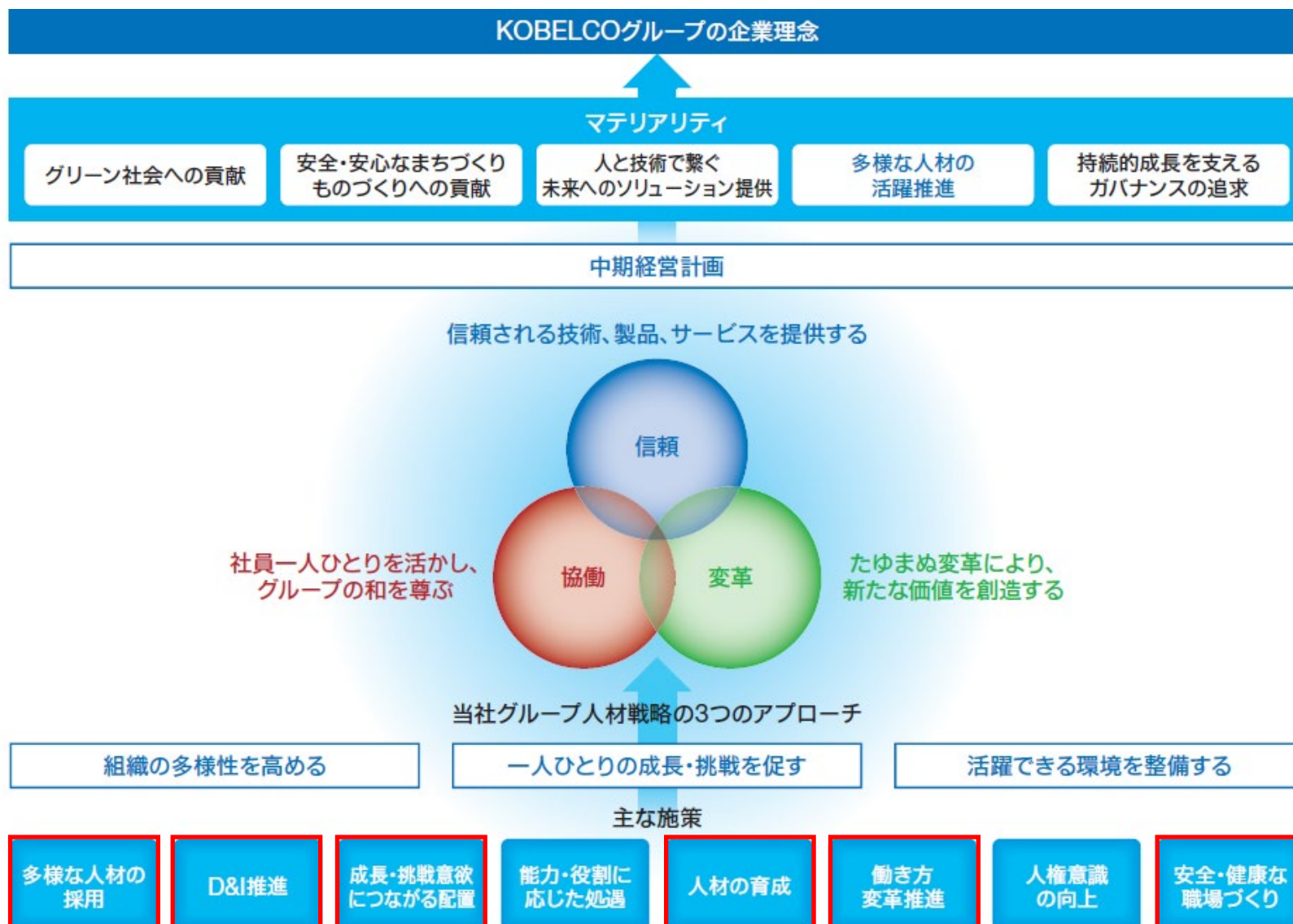
※4 Aqueduct:非営利団体世界資源研究所(WRI)が提供。水リスクの大きさを世界地図上にマッピングし、水リスクを特定評価するツール。



S (社会)

- ① 人的資本への対応
(人材戦略・安全衛生・健康経営)
- ② 責任あるサプライチェーン
- ③ 社会貢献活動

- KOBELCOグループは、企業としての社会的責任を果たし、新たな価値を創造するために、グループ企業理念を理解し実践できる人材を育成することが重要だと考えています。



EX

Employee Experience 『人材戦略・従業員体験向上』

- EXには、**当社が推進する様々な観点での人材戦略と、社員が当社で得る全ての体験をより良くしていくことの両面**の意義があります。
- 社員がより良い体験を得るためには、**一人ひとりが従来の働き方から一歩踏み出してみる**ことが重要だと考えています。

エンゲージメントの向上

- 毎年実施している独自の社員意識調査から、企業理念の浸透度をはじめとした社員の意識状況を数値として把握し、それをもとにエンゲージメント向上の取組みを行っています。

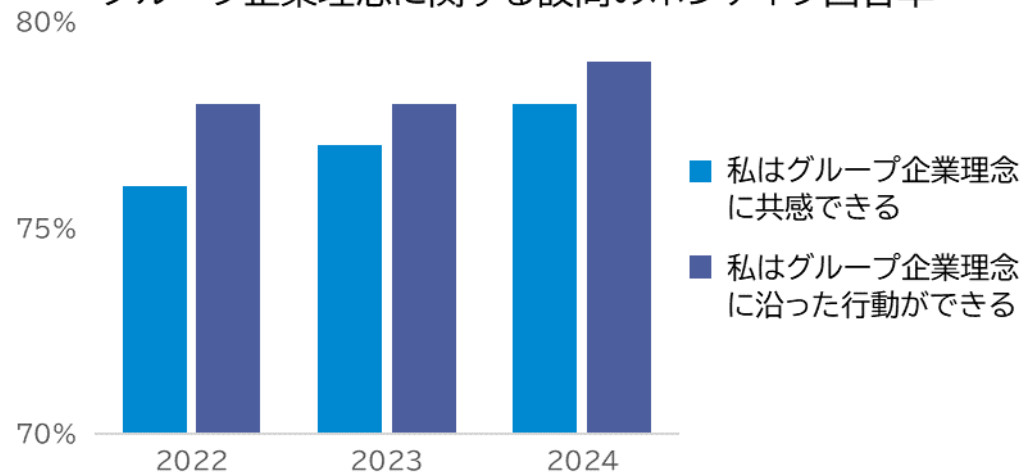
エンゲージメント向上の取組み

- 年間を通して以下の取組みを推進しています。

<主な取り組み>

- 経営幹部と社員の対話活動や「語り合う場」の開催
- 「経営層の約束宣言」発信

グループ企業理念に関する設問のポジティブ回答率



多様な人材の採用



- グループ企業理念や事業内容に共感し、KOBELCOグループで活躍したいという気概あふれる人材を積極的に採用しています。

新卒採用

- 女性採用比率の向上を目標に掲げ、女性学生向けセミナーへの参加、求人校への働きかけ等の取組みを積極的に実施しています。

モニタリング指標		2024年度目標	2021年度実績	2022年度実績	2023年度実績
新卒採用 女性比率	総合職事務系	50%以上	35%	48%	44%
	総合職技術系	15%以上	6%	10%	13%
	基幹職技能系	10%以上	8%	8%	9%

- 優秀な人材、グローバル志向の高い人材の採用のために、**外国人社員の総合職採用**にも積極的に取り組んでおり、主にアジア圏において、現地での採用活動を実施しています。

キャリア採用

- 当社の持続的な成長のためには、当社に不足する専門性をお持ちの方や、多様な経験を積まれた方にご活躍をいただくことが重要であり、積極的にキャリア採用活動を行っています。
現在、**全社員の30%以上がキャリア採用者であり、各職場で活躍いただいています。**

ダイバーシティ&インクルージョン（D&I）推進

採用

D&I

育成配置

働き方

安全健康

- 多様な背景や価値観を持つ人たちが十分に力を発揮できるよう、様々な取組みを実施しています。

KOBELCOグループ D&Iフォーラム

- ・ 2023年12月にD&Iを「知る」「理解する」「体験する」ことで、自分ごととして実践することを目的に開催し、600名以上が参加しました。
- ・ D&Iを学ぶための基調講演や“D&Iを推進する価値、期待できる成果”についてのパネルディスカッション、車いす体験会、映画上映会を行いました。



講演者と人事担当役員によるパネルディスカッション

ランチタイムセッション

- ・ 月1回、社内外のリーダーや男性育休経験者、障がいのある社員、闘病経験者など、多様な方からキャリアやD&Iについて学ぶ場としてオンラインセミナーを実施しています。

ユニバーサルマナー検定

- ・ 障がい者等への合理的配慮の考え方や障がい者との向き合い方を学ぶため「ユニバーサルマナー検定」の受講を全社で促進しています。



ユニバーサルマナーの実践に必要な「マインド」と「アクション」を体系的に学び、身につけるための民間資格

<2023年度>

役員・管理職の約1,000人が3級を取得

人材の育成・配置

採用

D&I

育成配置

働き方

安全健康

- 当社グループでは**一人ひとりの成長・挑戦を促す**ため、自律的にキャリアを形成し、学び、成長できる機会を支援しています。

自律・自走型教育

- ・ 従来の全員一律・階層別の教育に加えて、**自律自走型の人材育成**の強化を進めています。
- ・ 社員は自己のキャリアを自律的に形成し、自ら学び、会社は成長機会を提供することで、多様な人材の活躍を後押ししています。

約10,000以上のコンテンツより選択可能な動画教育



キャリアトライ制度

- ・ 社員自らが希望する部署へチャレンジできる**キャリアトライ制度(社内公募制度)**を導入し、近年制度の拡充を図っています。

ポジション提示型

会社が募集部署を社員に提示

ポジション提示-PlusOne型

現部署の業務と兼任

オープンポジション提示型

社員自身が希望異動先を提示

働き方変革推進

採用

D&I

育成配置

働き方

安全健康

- 優秀な人材の確保・定着、働きがいのある職場環境整備に向けて、2024年度より**職場環境改善**のための積極的な投資を行っていきます。

職場環境改善

- 今中期経営計画期間において、寮社宅、厚生施設、教育研修施設や各事業所の事務所オフィスの計画的な刷新および省人化、自動化関連投資に総額 **約600億円** の投資を実施予定です。

※ 投資額は意思決定ベース、一部経費含む

<投資額の内訳>

単位:億円

寮社宅関連	53
厚生施設・教育施設関連	42
本社オフィス・工場事務所関連	363
人材不足対応 (省人化・自動化関連)	143

<東京本社移転について>

- コロナ禍以降の働き方の変化等を踏まえて、KOBELCOグループのヘッドオフィスとして、災害に強く、機能的で、社員相互のコミュニケーション向上に繋がり、ブランドイメージ向上や優秀な人材の獲得に寄与するオフィスを目指し、移転を決定しました。
(移転時期:26年度予定)

【移転先物件概要】

(物件名)THE LINKPILLAR2

※フロアの一部に入居予定

(最寄駅)JR高輪ゲートウェイ駅等

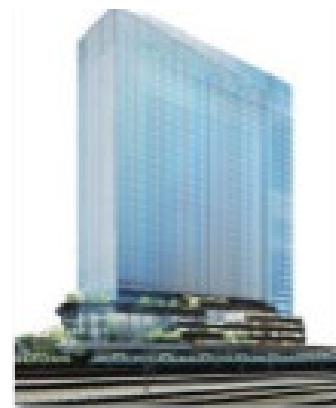
(規模)地上31階、地下5階

(基準階面積)3,653㎡

(延床面積)208,457㎡

(高さ)168m

(竣工)25年12月予定



- 「安全・衛生・健康は経営の基盤であり、全ての事業活動に優先する」という考えのもとで、安全で安心して働くことのできる活気あふれた職場の実現に向けて、様々な安全衛生活動を行っています

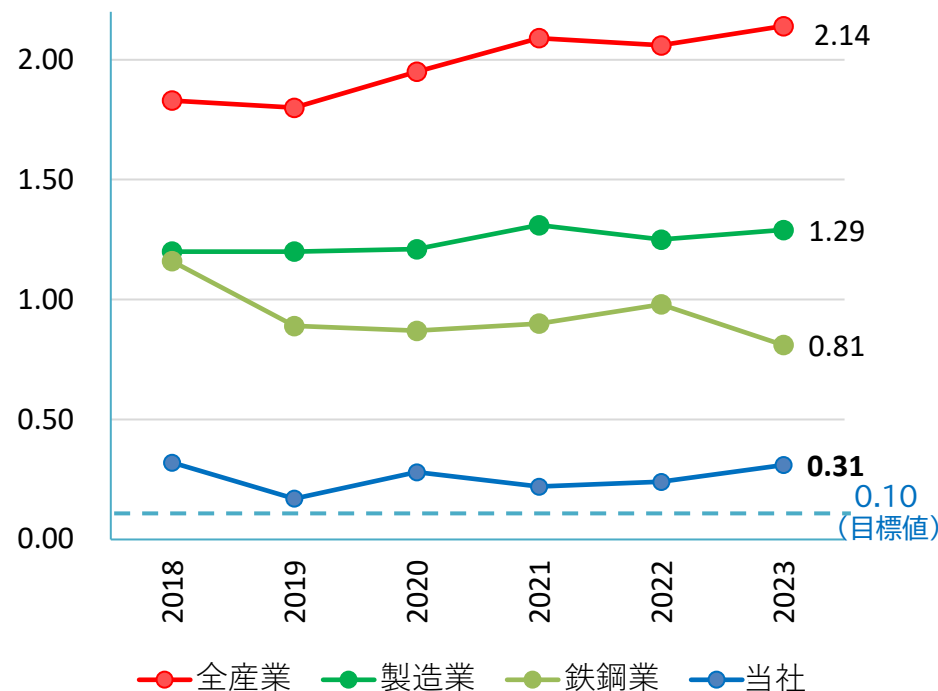
2023年度の総括

【総括】請負会社を含む休業災害17件発生

- 休業度数率 : 0.31 (目標0.10は未達)
- 死亡災害 : ゼロ

- 国内外グループ会社を対象とした監査
- 安全衛生DXの取組: 生体情報検知システムを用いたウェアラブル端末の試行展開
- 【危険源からの隔離】の視点で機械安全を全社展開と共に、スタッフ機械安全教育の実施

休業災害度数率の推移



安全監査の
グローバル展開

グループ会社(国内・海外)の安全衛生監査と支援

安全・環境部が各事業部門と連携し、安全衛生監査を展開し、管理体制、法令遵守、リスク管理確認、及び改善支援

今中期(2024-26年度)に55拠点の実施を計画
国内グループ会社(28拠点)、国外グループ会社(27拠点)



DXによる
安全衛生の取組み

生体情報検知を活用した作業支援システム

体調変化を検知し、本人および周囲に知らせ、熱中症などの未然防止を目的としたウェアラブル端末の試行



作業員見守りシステム



熱中症対策
ウォッチ

安全・健康に関する
教育の実施

階層別教育・専門教育の実施

安全・健康に関する研修を通じて知識・スキルの習得を促進

安全・健康に関する研修 (本社主催)	教育対象 (階層別)	受講者数 (人)			機械安全教育 【9時間/人】 926人 (23年度)
		21年度	22年度	23年度	
	新人(1~5年目)【45時間/人】	223	1053	863	
	監督者【21時間/人】	539	711	434	
	ライン室長【14時間/人】	16	56	70	

- 健康の取組みは「未然予防」「早期発見/早期対応」のコンセプトで、心身共に健康でいきいきと働くことのできる人づくり・職場づくりの実現に向け、長年にわたり取り組んでいます

『未然予防・早期発見/早期対応』の主な取組み

- なんでも相談室による相談体制の構築
- ストレスチェックによる個人、職場改善フォローの推進
- 睡眠改善に向けた教育動画の展開

メンタル
ヘルス

- 人間ドックの実施
- がん検診の充実化
- 予防接種
- 禁煙に向けた取り組み

フィジカル
ヘルス

健康診断
疾病対策

- 健康アプリによる運動習慣推進
- 健康教室や運動動画等による運動不足解消の取組み

健康関連投資額※: 約181百万円/年

※ 人間ドック、がん検診、ストレスチェック、予防接種、健康アプリ、健康管理システム運営費等（法定事項は除く）

- ★ 当社の取組みが評価され、『健康経営優良法人2024(ホワイト500)』に2023年度に続き5度目の認定



メンタルヘルス

- ・ 1980年代より産業カウンセラーによる相談体制構築(「なんでも相談室」)
- ・ ストレスチェック結果より、産業医を中心とした個人、職場改善フォロー※を推進

※ 事例:産業医や産業カウンセラーによる面談、
室員増員や業務移管推進による業務負荷低減、
照明増設やトイレ改修など職場環境改善

【高ストレス者割合】22年度:8.9% → 23年度:8.7%



- ・ 2022年度より睡眠教育動画(快眠ポイント、交替勤務者への適切な睡眠等)作成、展開 睡眠動画資料

【睡眠で休養が十分に取れている者】22年度:65.6% → 23年度:62.6%

健康診断
疾病対策

- ・ 2008年より順次インフルエンザ予防接種を事業所内(一部除く)で開始。なお、神鋼健保加入者(扶養者含む)は費用全額負担 【23年度扶養者利用数】4864名
- ・ 2010年より胃バリウム検査から内視鏡検査+血液検査導入。また、ピロリ菌検査、喀痰検査などがん検診の充実
- ・ 2011年より50歳到達時社員を対象に人間ドック実施。2023年からは60歳到達時の社員とその配偶者も加え、ご家族含めた制度として展開

【当社胃がん検査制度によるがん判明者数】18~23年度:計41人



人間ドック施設
(灘ドック健診クリニック)

- ・ 受動喫煙のない職場環境を構築、維持。現在、就業時間内禁煙や時間帯禁煙(いずれも一部事業所)の導入など、吸いにくい環境づくりに向け推進中

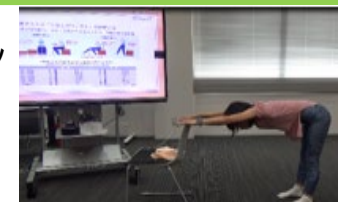
【喫煙率】22年度:28.3% → 23年度:27.7%

フィジカルヘルス

- ・ 従来、紙面による健康づくり活動を実施。2021年度から各自のスマートフォンによる健康づくりアプリ※を導入し、意識向上や運動習慣化に活用

※ ㈱JMDC PepUpアプリ。現在、社員の約87%が登録

【運動習慣化割合】22年度:23.4% → 23年度:24.1%



健康教室(動画)

- KOBELCOグループの『人権基本方針』『CSR調達基本方針』に基づき、サプライチェーンにおいて2023～2024年度にかけて**人権DDの取組みを深化させ、救済窓口の設置を行いました。**



<人権DDの取組みを深化>

改善支援ガイドブックの配付

- 22年に実施したCSR全般アンケート1回目で「人権・労働」に関する社内ガバナンス体制が不十分と評価したお取引先様へ、『人権関連改善支援ガイドブック』を配布。

目次

第一章	人権に関する基本理解及びその重要性について	2
第二章	項目ごとの取り組みについて	11
2	人権・労働	12
2-1	強制的な労働の禁止	15
2-2	児童労働の禁止、若年労働者への配慮	18
2-3	労働時間への配慮	21
2-4	適切な賃金と手当	24
2-5	非人道的な扱いの禁止	27
2-6	差別の禁止	30
5-6	通報者の保護	34

人権詳細アンケートの実施

- ガイドブックの配付と同時に、各社の「人権・労働」に関する法令等の遵守状況を確認することを目的に人権詳細アンケート1回目を実施。

人権詳細アンケートの調査事項(合計41問)

分野	設問数	分野	設問数
全般	2	適切な賃金と手当	8
外国人技能実習生	10	ハラスメントの禁止	5
児童労働の禁止	2	差別の禁止	3
労働時間への配慮	10	通報者の保護	1

<救済窓口の設置>

JaCERの「対話救済プラットフォーム」を活用

- JaCER(一般社団法人ビジネスと人権対話救済機構)に加盟し、同機構のプラットフォームにて当社サプライヤーで発生した人権に関する苦情・相談を受け付ける体制を整備。

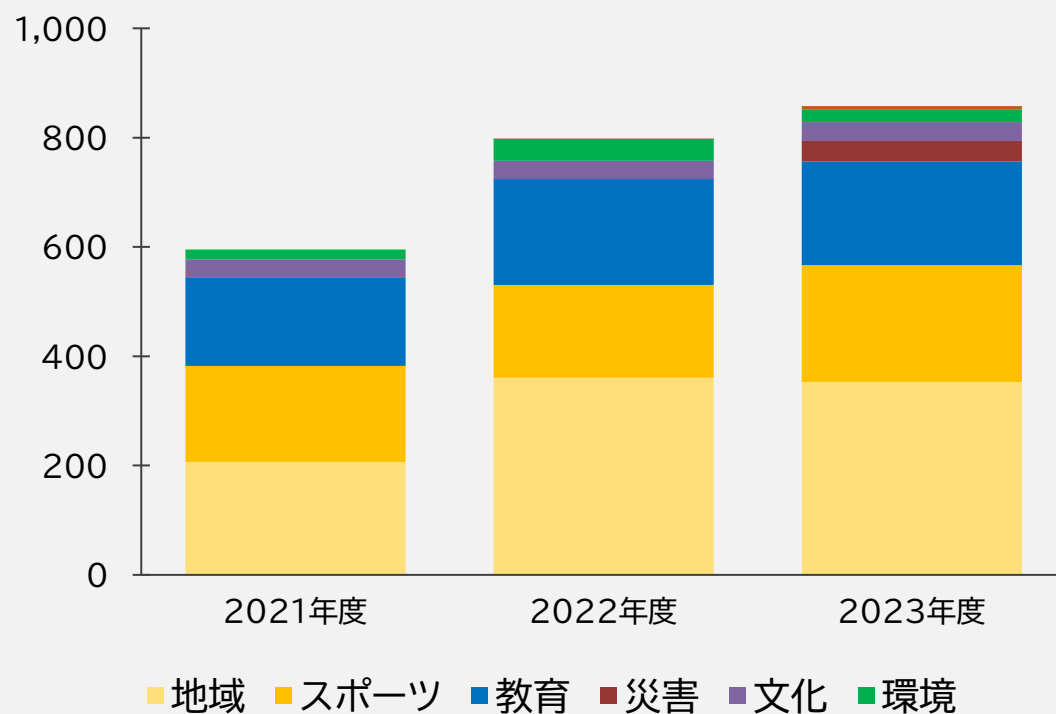
※ ①～③は国連の「ビジネスと人権に関する指導原則」において企業に求められる3つの取組み

社会貢献活動

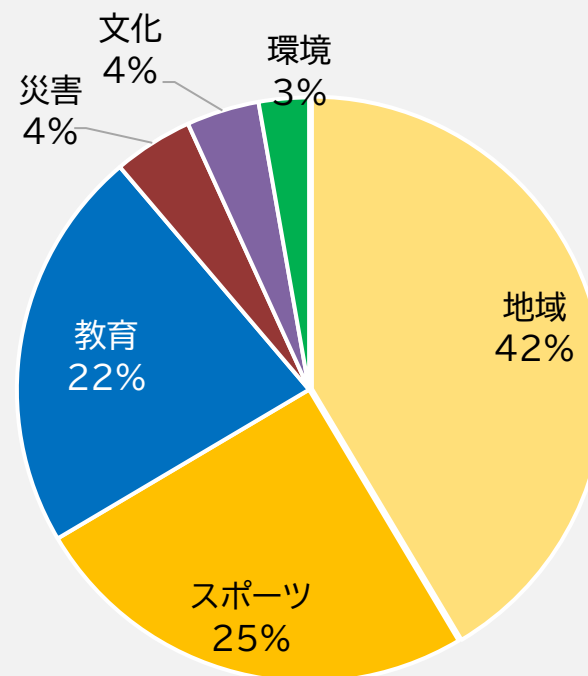
- 当社グループは、子どもたちや青少年の育成支援をはじめ、過去より様々な活動を行ってきています。2023年度は、ユニセフ・日本赤十字社を通じた**海外の災害への寄付**、事業所が立地する**地域自治体への寄付**、**令和6年能登半島地震への寄付**等も含め、社会貢献活動費用として約8億5千万円を支出しています。
- ※ 社会貢献活動費用にコベルコ神戸スティーラーズ活動運営費用は含まない

(単位:百万円)

KOBELCOグループの社会貢献活動費用



社会貢献活動費用内訳(2023年度)



- 当社の社会貢献活動を社内外に広く知っていただく為、2024年度よりWEBサイトを開設しました。
- 「環境」「地域」「スポーツ・教育・芸術」「災害支援」の4つの切り口で取組みを発信しています。



環境 2024.03.07



地域 2024.03.08



スポーツ・教育・芸術 2024.03.07



災害支援 2024.03.08



- 事業を通じた社会貢献の中で、環境問題や人口構造の変化に対する課題解決のみならず、地域住民の安全・安心な暮らしに貢献する取り組みも国内外で手掛けています。

～例：沖縄県における不発弾処理への貢献～

耐爆容器により「不発弾処理の安全性の向上」および「自治体や住民避難等の負担軽減」を実現

【従来の処理方法】

発見場所に鉄製のプレートによる仮設の壕を作り、その中で処理※

安全性

- ・住民財産棄損の可能性有り
- ・窮屈な自衛隊殿作業環境

地元負担

- ・壕構築の時間と設置場所の確保要
- ・原則、半径88mの住民避難/交通規制
- ・避難弱者(入院患者等)の負担大



【当社技術による改善案】

耐爆容器内で処理※

安全性

- ・密閉構造により住民財産保護
- ・制約の少ない自衛隊殿作業環境

地元負担

- ・住民避難は半径25.5mに縮小
- ・自治体、住民、周辺事業者の負荷軽減



5インチ艦砲弾用耐爆容器を利用した不発弾処理作業の様子

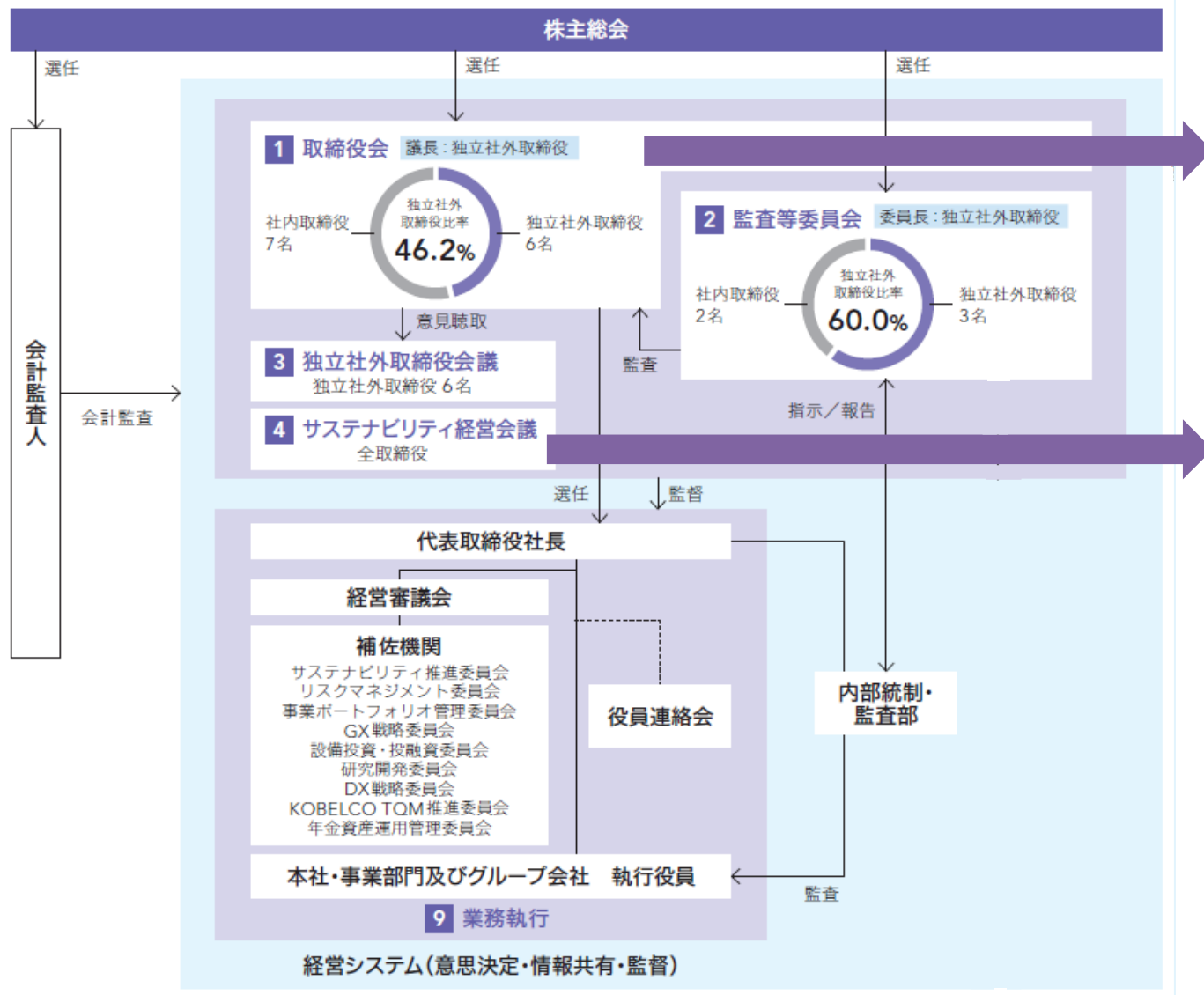
※ 処理作業者は自衛隊、5インチ艦砲弾を処理対象とした耐爆容器



- ① 経営体制(モニタリング機能強化)
- ② 役員報酬へのESG指標反映

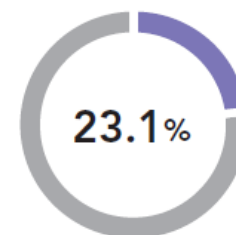
経営体制（モニタリング機能強化）

コーポレートガバナンス体制の特徴



取締役会の多様性確保

女性取締役比率



本年6月より1名増員となり13名中3名

取締役会議長※24年6月就任
伊藤 ゆみ子氏(社外取締役)

定期的な認識共有・意見交換

- 本年度より「サステナビリティ経営会議」を新設。
- サステナビリティに関する主要な活動について、執行側との幅広いかつ定期的な認識共有や意見交換を行うことで取締役会のモニタリング機能を強化する。(定例会議を原則として四半期に1回開催)

これまでの主な議題

6月	マテリアリティ、GX戦略、人材戦略
8月	品質マネジメント、リスクマネジメント

ESG評価指標の導入

- 当社グループの中長期的な企業価値向上に向けて、カーボンニュートラルへの挑戦をはじめとしたESGに関する各種経営課題の解決を積極的に推し進めることができるよう、2024年度より役員報酬の指標に非財務指標である**ESG指標**を導入しました。

ESG評価指標

- ESG指標を反映する報酬は、企業価値向上に対する利害を株主の皆様と共有することを目的とする**株式報酬**としており、支給係数の決定時に本指標を活用します。
- E(環境)・S(社会)・G(ガバナンス)の全ての観点を網羅的かつ客観的に評価するために、グローバルに展開する**主要なESG評価機関の評価**を指標とします。

ESG評価機関	指標	基準値※	【ご参考】 当社の直近 の評価結果
CDP	気候変動 スコア	A	A-
FTSE	ESG スコア	3.9 以上	3.8
MSCI	ESG レーティング	AAA	AA

※ 支給係数が最大になる場合の評価

イニシアチブへの参画（主なもの）

TCFD



SDGs



国連グローバルコンパクト

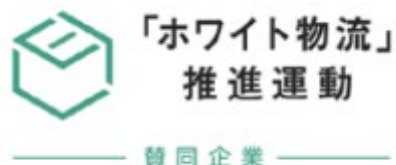


当社は、国際連合が提唱する「国連グローバル・コンパクト(United Nations Global Compact)」に署名し、2021年3月に参加企業として登録されました。UNGC に署名する企業・団体は、人権の保護、不当な労働の排除、環境への対応、腐敗の防止に関わる10原則に賛同する企業トップ自らのコミットメントのもと、その実現に向けて努力を継続しています。

GXリーグ



ホワイト物流



パートナーシップ構築宣言



2030年30%へのチャレンジ



輝く女性の活躍を加速する
男性リーダーの会



社会からの評価（2024年8月時点）

FTSE4Good
Index Series



FTSE4Good

FTSE Blossom
Japan Index



FTSE Blossom
Japan Index

FTSE Blossom Japan
Sector Relative Index



FTSE Blossom
Japan Sector
Relative Index

S&P/JPX
カーボン・エフィシエント指数



MSCIジャパン
ESGセレクト・リーダーズ

2024 CONSTITUENT MSCIジャパン
ESGセレクト・リーダーズ指数

THE INCLUSION OF Kobe Steel, Ltd. IN ANY MSCI INDEX, AND THE USE OF MSCI LOGOS, TRADEMARKS, SERVICE MARKS OR INDEX NAMES HEREIN, DO NOT CONSTITUTE A SPONSORSHIP, ENDORSEMENT OR PROMOTION OF Kobe Steel, Ltd. BY MSCI OR ANY OF ITS AFFILIATES. THE MSCI INDEXES ARE THE EXCLUSIVE PROPERTY OF MSCI. MSCI AND THE MSCI INDEX NAMES AND LOGOS ARE TRADEMARKS OR SERVICE MARKS OF MSCI OR ITS AFFILIATES.

MSCI日本株女性活躍指数
(WIN)

2024 CONSTITUENT MSCI日本株
女性活躍指数 (WIN)

THE INCLUSION OF Kobe Steel, Ltd. IN ANY MSCI INDEX, AND THE USE OF MSCI LOGOS, TRADEMARKS, SERVICE MARKS OR INDEX NAMES HEREIN, DO NOT CONSTITUTE A SPONSORSHIP, ENDORSEMENT OR PROMOTION OF Kobe Steel, Ltd. BY MSCI OR ANY OF ITS AFFILIATES. THE MSCI INDEXES ARE THE EXCLUSIVE PROPERTY OF MSCI. MSCI AND THE MSCI INDEX NAMES AND LOGOS ARE TRADEMARKS OR SERVICE MARKS OF MSCI OR ITS AFFILIATES.

CDP



「気候変動」で
「A-(Aマイナス)」の評価

プラチナくるみん



PRIDE指標



「ゴールド」を受賞

健康経営優良法人
2024



2024
健康経営優良法人
Health and productivity
ホワイト500

2024年度統合報告書およびESGデータブックを9月6日に発行しました。
当社ホームページより是非ご覧ください。

統合報告書



ESGデータブック



https://www.kobelco.co.jp/about_kobelco/outline/integrated-reports/index.html

KOBELCO が 実現したい未来	「KOBELCOの使命・存在意義」の実行を通じて実現したい社会・未来 安全・安心で豊かな暮らしの中で、 今と未来の人々が夢や希望を叶えられる世界。							
KOBELCO の 使命・存在意義	KOBELCOグループの社会的存在意義であり、果たすべき使命 個性と技術を活かし合い、 社会課題の解決に挑みつづける。							
KOBELCO の 3つの約束	KOBELCOグループの社会に対する約束事であり、グループで共有する価値観 1. 信頼される技術、製品、サービスを提供します 2. 社員一人ひとりを活かし、グループの和を尊びます 3. たゆまぬ変革により、新たな価値を創造します							
KOBELCO の 6つの誓い	「KOBELCOの3つの約束」を果たすため、品質憲章とともに全社員が実践する行動規範 <table><tr><td>1. 高い倫理観とプロ意識の徹底</td><td>3. 働きやすい職場環境の実現</td></tr><tr><td>2. 優れた製品・サービスの提供による社会への貢献</td><td>4. 地域社会との共生</td></tr><tr><td rowspan="2">品質憲章</td><td>5. 環境への貢献</td></tr><tr><td>6. ステークホルダーの尊重</td></tr></table>	1. 高い倫理観とプロ意識の徹底	3. 働きやすい職場環境の実現	2. 優れた製品・サービスの提供による社会への貢献	4. 地域社会との共生	品質憲章	5. 環境への貢献	6. ステークホルダーの尊重
1. 高い倫理観とプロ意識の徹底	3. 働きやすい職場環境の実現							
2. 優れた製品・サービスの提供による社会への貢献	4. 地域社会との共生							
品質憲章	5. 環境への貢献							
	6. ステークホルダーの尊重							

将来の見通しに関する注意事項

- 本日のプレゼンテーションの中には、弊社の予想、確信、期待、意向および戦略など、将来の予測に関する内容が含まれています。これらは、弊社が現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化による変動可能性など様々な要因によって、実際に生じる結果が予測内容とは実質的に異なってしまう可能性があります。弊社は、将来予測に関するいかなる内容についても、改訂する義務を負うものではありません。
- 上記の不確実性および変動の要因としては、以下に挙げる内容を含んでいます。また、要因はこれらに限定されるわけではありません。
 - ・ 主要市場における経済情勢および需要・市況の変動
 - ・ 主要市場における政治情勢や貿易規制等各種規制
 - ・ 為替相場の変動
 - ・ 原材料のアベイラビリティや市況
 - ・ 競争企業の製品・サービス、価格政策、アライアンス、M&Aなどの事業展開
 - ・ 弊社の提携関係に関する提携パートナーの戦略変化

KOBELCO

補足資料

KOBELCOグループのサステナビリティ経営

- グループ企業理念に基づくサステナビリティ経営を、以下のフレームワークをベースとして推進。
- 「**価値創造領域**」と「**経営基盤領域**」にわたる重要課題に取り組み、持続的な成長と企業価値の向上を目指す。

グループ企業理念

KOBELCOが実現したい未来

“安全・安心で豊かな暮らしの中で、
今と未来の人々が
夢や希望を叶えられる世界。”

KOBELCOの使命・存在意義

“個性と技術を活かし合い、
社会課題の解決に挑みつづける。”

KOBELCOの3つの約束

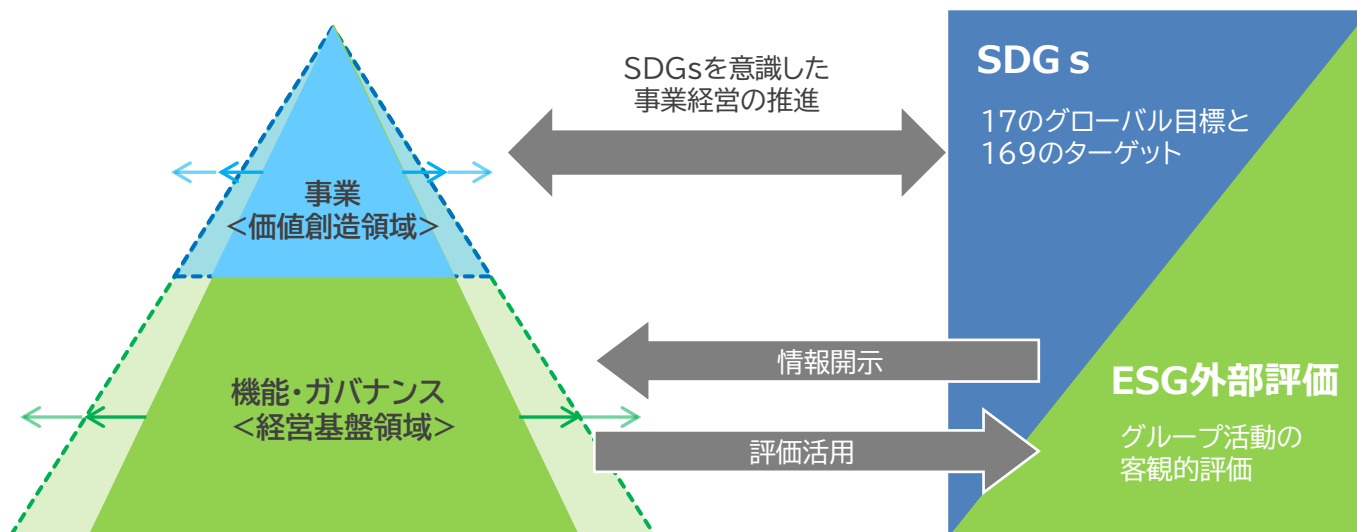
KOBELCOの6つの誓い

取り組むべき重要課題

■本業を通じて解決していく社会課題

- 研究開発・モノづくりを通じた製品・サービスの提供による新しい価値創造

推進ツール



マテリアリティの指標・目標に対する2023年度実績値① ※旧指標・目標

KOBELCOグループのマテリアリティ		指標・目標		
		指標	目標	実績 (2023年度)
グリーン社会への貢献	気候変動対応	①生産プロセスにおけるCO ₂ 削減	2030年:30~40%削減(2013年度比) 2050年:カーボンニュートラルへの挑戦	20%削減
		②技術・製品・サービスによるCO ₂ 排出削減貢献	2030年:6,100万t (うちMIDREX®プロセス 4,500万t以上) 2050年:1億t以上	6,118万t ※技術・製品・サービスによるCO ₂ 排出削減貢献量の算出については、最新の係数を使用
		③電力事業におけるCO ₂ 削減	2030年:石炭火力高効率化 USC以上 2050年:カーボンニュートラルへの挑戦	—
	資源循環対応	④水のリサイクル率	95%以上を維持	96.3%
		⑤副産物の再資源化率	主要3品目の再資源化 2025年度:99% ※主要3品目:スラグ、ダスト、スラッジ	99.1%
安全・安心なまちづくり・ものづくりへの貢献	「S+3E」のエネルギー供給 ※S+3E:Safety + Energy Security, Economic Efficiency, Environment	—	—	—
	ニーズに即した素材・機械の提供	⑥ターゲットとする製品の製品構成	2025年度:鋼材の「線条・ハイテン」比率52%	48%
	安全性と生産性の向上		—	—

マテリアリティの指標・目標に対する2023年度実績値②

KOBELCOグループの マテリアリティ		指標・目標		
		指標	目標	実績 (2023年度)
人と技術で 繋ぐ未来への ソリューション 提供	デジタル化に よるものづくり・ 業務変革(DX)	⑦デジタル化によるスタッフ業務 効率化時間	2023年度:年間12.5万時間 2025年度:年間25万時間	年間 25.9万 時間
		⑧既存システム再構築進捗率 ※KOBELCOグループ中期経営計画(2021～ 2023年度)策定時点で計画したメインフレーム系 を除く既存システム再構築計画に対する進捗率	2025年度:100%	63.6%
		⑨DX人材の育成人数	a.2023年度:約500名 b.2023年度:約140名 ※ a.ITエバンジェリスト(ITを活用し自部門の業務 改革を自ら企画し推進する人) b.データサイエンティスト(高度なデータ分析を行 うことができる人)	a.593名 b.146名 (累計)
	多様な 知的資産の 融合と革新	⑩新規事業創出	2025年度:複数の事業化TFが活動 している状態 2030年度:複数の事業化TFが事業を 開始 (目指す収益規模:10億円以上／件・年)	1案件
		⑪博士号取得者数	—	168人

マテリアリティの指標・目標に対する2023年度実績値③

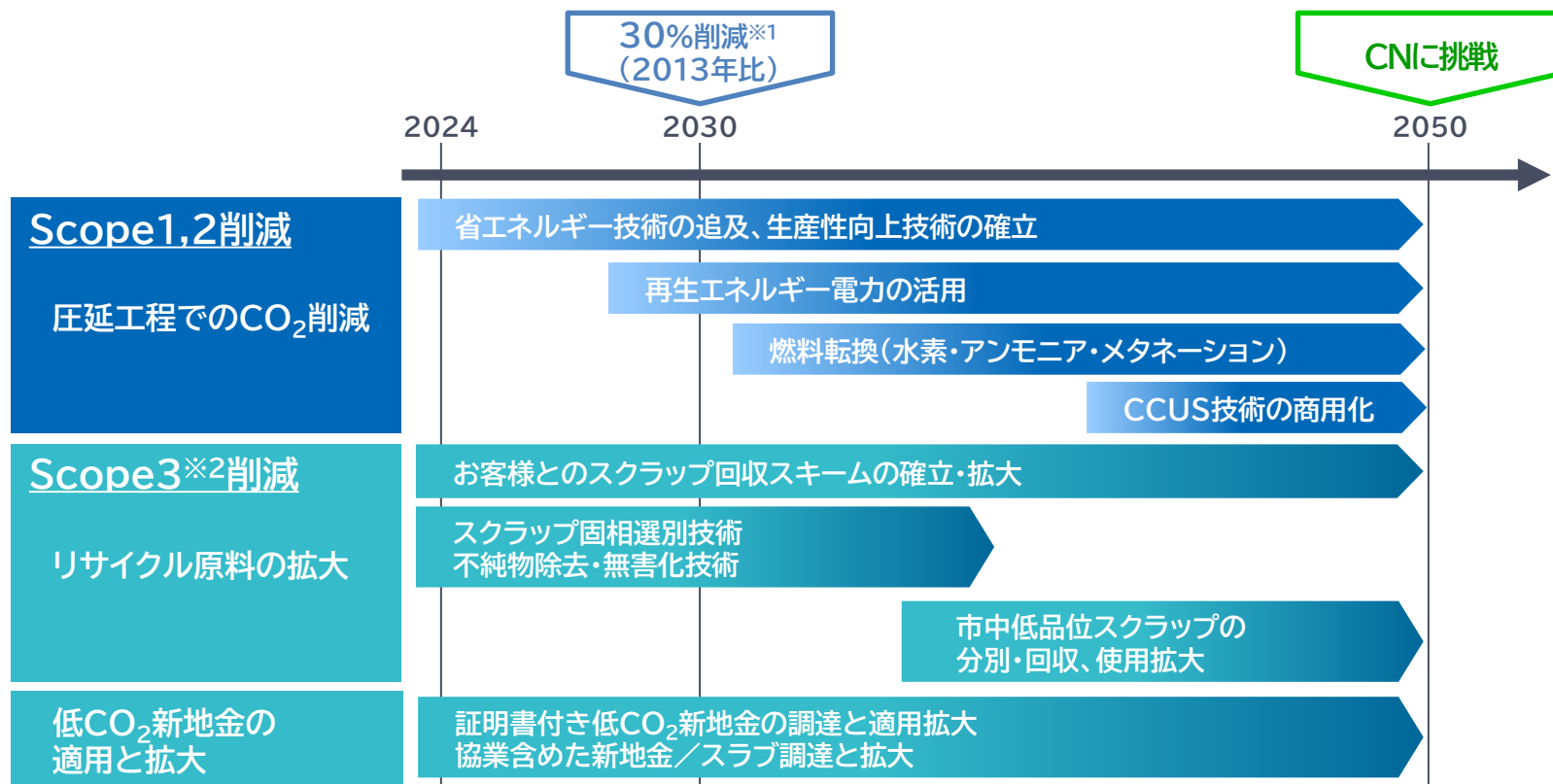
KOBELCOグループのマテリアリティ		指標・目標		
		指標	目標	実績 (2023年度)
多様な人材の 活躍推進	ダイバーシティ & インクルージョン	⑫新卒採用女性比率	2023年度: a.総合職事務系:50% 以上 b.総合職技術系:15% 以上 c.基幹職技能系:15% 以上	a.44% b.13% c. 9%
		⑬女性管理職比率	2023年度:2020年度比2倍 (2020年度実績:2.7%)	3.1%
		⑭障がい者雇用率	2.3%(法定雇用率)	2.62%
		⑮外国籍社員数	—	87人
	働き方変革	⑯育児のための特別休暇 取得率(男性社員)	2023年度:100%	94.5%
		⑰10年未満離職率	15%未満	21.1%
		⑱時間外労働時間	—	16.1h (月・人)
		⑲年次有給休暇取得率	平均15日／年・人	18.0日
		⑳総実労働時間	2,000h／年未満	2,050h
		㉑社員意識調査の実施継続	—	継続中
	人材育成	㉒社員研修の拡充	—	a.380,056h b.33.0h
			a.総研修受講時間(延べ) b.一人当たり平均受講時間	※eラーニングは15 分／人・件にて算定

マテリアリティの指標・目標に対する2023年度実績値④

KOBELCOグループの マテリアリティ		指標・目標		
		指標	目標	実績 (2023年度)
持続的成長を 支える ガバナンスの追求	コンプライアンス・リスクマネジメント	㉓内部通報件数	—	117件
	人権尊重	㉔社員研修の受講率	グループ全体での 人権研修実施	100% (KSLでの eラーニング受講)
	安全衛生	㉕休業災害度数率	0.10以下	0.31
		㉖安全衛生教育の拡充	—	1,367人
	品質保証	㉗内部品質監査における品質 ガイドライン認定拠点率	2023年度： 品質監査対象拠点の70%	67%
		㉘当社定義における試験・ 検査設備の自動化率	—	—
		㉙お客様満足度調査の実施継続	—	継続中
	コーポレート ガバナンス	㉚取締役会実効性評価の向上	—	継続中

アルミ板 CO₂削減ロードマップ

- 2030年: Scope1+2+3※¹で30%削減(2013年度比、CO₂排出原単位)
- 2050年: カーボンニュートラルへの挑戦



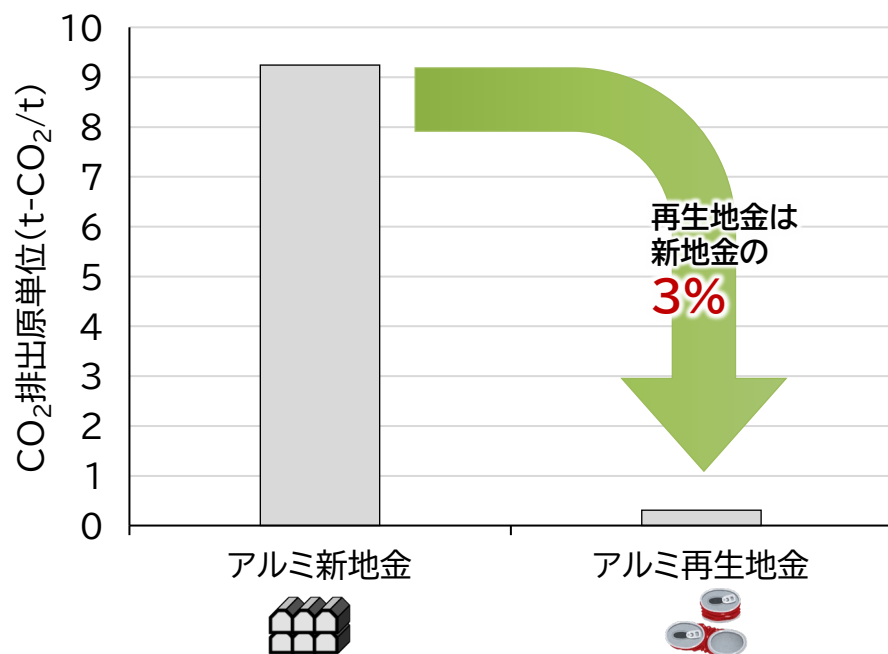
※1 アルミ板事業での2030年のCO₂削減目標
Scope1、Scope2、Scope3_Category1の合計で、CO₂排出原単位
主要な海外グループ会社含む

※2 Scope3 category1(原料)

【参考資料】アルミ板事業における取組み

アルミ製品の原料CO₂排出量

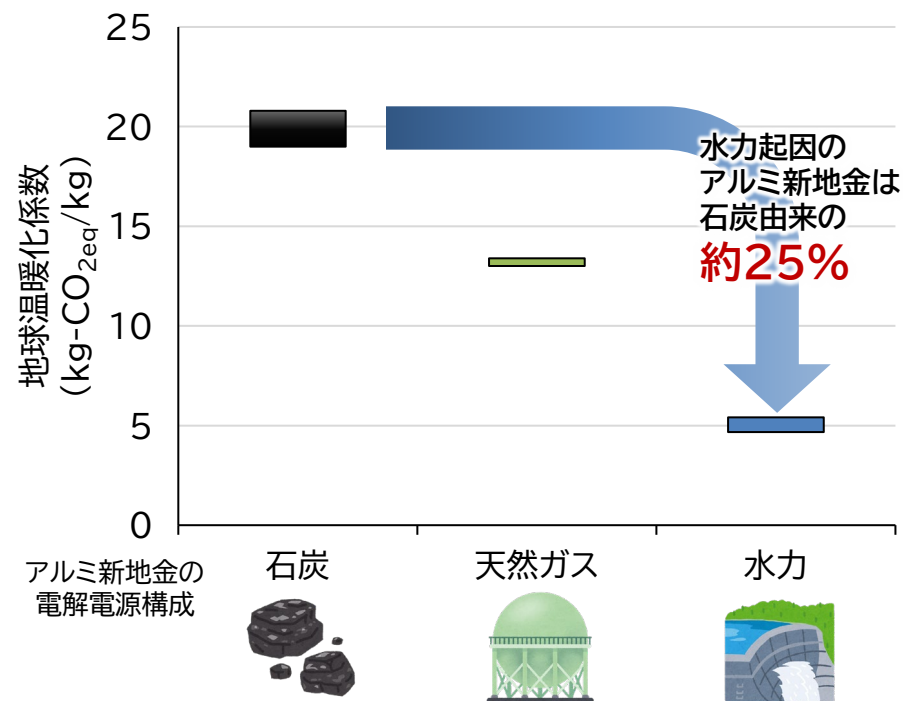
- アルミ製品ではCO₂排出量に占める原料(Scope3 Category1)の占める割合が高い
➡ **原料(Scope3 Category1)での削減が重要**
- アルミ再生地金のCO₂排出量はアルミ新地金の3%
➡ **リサイクル原料活用がCO₂削減の有効手段の一つ**



出所: 日本アルミニウム協会情報より神戸製鋼所作成

アルミ新地金の環境負荷

- リサイクルは進展するが、アルミ新地金も継続して必要
➡ **アルミ新地金のCO₂削減も重要**
- アルミ新地金は電解製錬時の電源構成で環境負荷が異なり、水力由来の新地金は環境負荷が低い
➡ **再エネ由来の低CO₂アルミ地金の調達・活用が重要**



出所: 日本アルミニウム協会情報より神戸製鋼所作成
(代表的な国から)